

字を抱えているため、来年度は国の借金である国債を30兆円以内に抑えるとか、医療費などの社会保障費も極力抑えようとしているんだ。

そこで、国は、来年度に向けて医療制度の改革をしようとしているんだ。どのような改革になるかは、まだ具体的には分からないけど、私たちの負担が増えるのかどうか、注目していかなければならない。



ちよつと待つてください。なにか医療費の伸びを抑える方法はないんですか。



方法はある。全体の医療費を抑えることだ。そのためには、病気になることが一番だね。普段からの予防が大事なんだ。例えば、スポーツをしたら食生活に気をつけるとかいろいろあると思うけど、健康診断などを受けて、いつもからのチェックをするというのも病気の早期発見につながるよ。



医療費を抑制するというより、健康で暮らせることが一番ですからね。国民一人ひとりが意識することが大切ですね。

全国平均を9.7%上回る高齢化率



そうだね。次は、登別市の国保について話をしよう。登別市の国保は、高齢者の割合が多いことや、地域的な理由から医療費が多くかかっているんだ(図3参照)。

国保被保険者の70歳以上の高齢者が占める割合を示したものが、図4なんだけど、全国平均では24.9%、全道

平均では28.0%に対し、登別市では34.6%になっているよ。



そうですね。一般的には、高齢になるにしたがって、病気になるやすいといわれていますからね。



そうだね。また、地域的な理由としては、登別市内や室蘭市内に大型病院があり、病床数も多いから、私たちは比較的容易に高度な治療を受けたり、入院したりすることができるとね。高度な治療を受けたり、入院して抜本的な治療ができることは、とてもいいことなんだけど、費用も高く、入院日数が長期になればなるほど国保の負担も大きくなるよ。



そうですね。でも、医療を受けたくても近くに大きな病院がなくて、遠くへ行かなければ

図3 登別市の一人当たりの医療費(平成11年度)

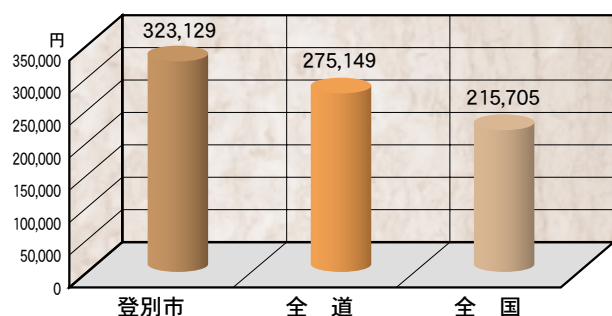


図4 70歳以上の国保加入者の割合(平成11年度)

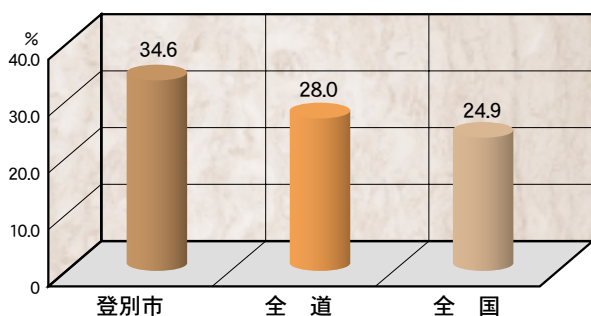
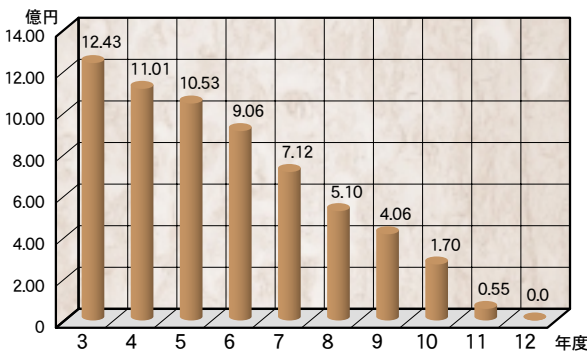


図5 登別市の国保の累積赤字の推移



登別市の国保財政状況の変遷

ばならない人もいますから、近くに大きな病院があるということはありがたいことです。



そうですね。それじゃあ、話はちよつと変わるけど、今度は登別市の国保の財政状況について、説明しよう。

登別市の国保財政は、昭和60年度から赤字に転落したんだ。平成3年度には、累積赤字が12億円以上になった。

国保は特別会計だから、基本的には独立採算性だよ。だから、保険税や公費で医療費などの支出を賄わなければならない。

市は、累積赤字を少しでも減らそうと収納率の向上対策や保険税率の改正



平成12年度で赤字が解消されたんですね。ところで、これからはどうなるんですか。



うん。累積赤字を解消できた一つの要因として、国からの支援があったんだけど、これが平成13年度では2割カットされて平成14年度以降は廃止される見込みなんだ。額でいうと平成12年度で約2億

などを行うとともに、一般会計からも毎年度、国保を運営するための人件費・事務費などのほか、保険税の負担が大きくなるようにするための5千万円をはじめ、さまざまな支援を行ったんだ。また、国の支援策もあったから累積赤字は徐々に減っていき、平成12年度でやっと解消することができたんだ。累積赤字の推移を示したのが図5だよ。